

授業科目	生涯学習概論	単位数	2	担当教員	田中 千世子
講義のねらいと概要	<p>生涯学習の考え方を実感的に理解することが第一のねらいである。そのために自分自身の学習履歴を見つめ直し、そこから将来の学習予想図を作り上げる。また、生涯学習は自分だけのものではなく他者もまた生涯学習の主体であることを理解していく。そのことで社会にとっての生涯学習の必要が鮮明に見えてくる筈である。</p>				
授業計画	第1週	生涯学習と自分の位置づけについて考える。			
	第2週	生涯学習と社会について考える。			
	第3週	女性のさまざまなキャリアについて。			
	第4週	生涯学習の模範となるゲストを迎え、お話を聞く。			
	第5週	ゲストのお話についてレポートを書く。			
	第6週	個々の生涯学習プランを考える。			
	第7週	個々の生涯学習プランの発表とアドバイス			
	第8週	ヨーロッパにおける生涯学習 イタリア・フランスの場合			
	第9週	ヨーロッパにおける生涯学習 スウェーデン・オランダの場合			
	第10週	ヨーロッパにおける生涯学習 イギリス・ハンガリーの場合			
	第11週	アメリカとカナダにおける生涯学習			
	第12週	各自の生涯学習プランの見直し			
	第13週	見直した生涯学習プランの発表			
	第14週	生涯学習サービスについて			
	第15週	定期試験とまとめ			
指導方法履修上の注意	<p>家族・知人・友人のなかに生涯学習の手本となる人が必ずいる筈である。その人の努力を理解し、自分自身のことを考える。また、講義中に紹介する生涯学習の実践者についても同様である。自分の将来を学習と結びつけて予想するシュミレーションを活発にしていくことも重要である。世界の生涯学習の事例を学び、自己の生涯学習プランを磨きあげる。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、レポート（20%）、発表（20%）、授業態度（10%）				
教科書	使用せず。				
参考文献					

授業科目	図 書 館 概 論	単位数	2	担当教員	木 下 朋 美
講義のねらいと概要	<p>図書館は生涯学習の重要な拠点のひとつとして、今後その重要性が増してくると考えられる。この科目は図書館についての入門的な科目であり、司書課程の導入科目である。授業は「図書館の意義と機能」「図書館の理念」「関係法規」などの項目から構成される。図書館を幅広い視野からとらえ、受講者が図書館や図書館員についての基礎的な知識を習得することを目標とする。</p>				
授業計画	第1週	はじめに 現代社会と図書館1：情報化社会と図書館			
	第2週	現代社会と図書館2：生涯学習と図書館			
	第3週	図書館の意義と機能			
	第4週	図書館法規と行政1			
	第5週	図書館法規と行政2			
	第6週	図書館の理念1：図書館の自由			
	第7週	図書館の理念2：図書館員の倫理と倫理綱領			
	第8週	図書館の歴史的展開			
	第9週	地域社会と図書館			
	第10週	各種図書館制度と機能1：国立国会図書館・公共図書館			
	第11週	各種図書館制度と機能2：大学図書館・学校図書館・専門図書館			
	第12週	外国の図書館			
	第13週	図書館協力とネットワーク/関係団体			
	第14週	新たなサービスと課題			
	第15週	試験とこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>他の司書課程科目を受講するための基礎知識を得る科目でもあるので、復習に重点を置いて授業内容をしっかりと身につけてほしい。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（80%）、授業態度（20%）				
教 科 書	『図書館概論 新訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ - 1）』（塩見 昇 編著、日本図書館協会）				
参 考 文 献	『図書館情報学用語辞典 第3版』（日本図書館情報学会、丸善） その他、授業中に適宜紹介する。				

授業科目	図書館制度・経営論	単位数	2	担当教員	西巻悦子
講義のねらいと概要	<p>・図書館組織を効率的・効果的に運用してその使命を達成する過程を理解し、図書館経営に興味を持つことができることをねらいとする。</p> <p>・図書館経営の意義、自治体行政のしくみと図書館業務、館長及び職員の責務と研修、業務・サービス計画と評価、他図書館や関係機関との連携・協力等 図書館経営のしくみとそれらが抱える課題について解説する。</p>				
授業計画	第1週	図書館と日本国憲法			
	第2週	地方自治制度における公立図書館の法的位置			
	第3週	図書館法と図書館			
	第4週	図書館と地方自治法に係る法的諸問題			
	第5週	図書館と図書館設置条例			
	第6週	図書館と学校や博物館その他との連携			
	第7週	図書館職員			
	第8週	資料選定と廃棄			
	第9週	図書館の無料原則			
	第10週	プライバシーの保護			
	第11週	図書館サービス			
	第12週	図書館利用と利用に関するトラブル			
	第13週	『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～（報告）』その1			
	第14週	『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～（報告）』その2			
	第15週	まとめと試験			
指導方法 履修上の 注意	主に教員が講義する。 課題提出を守ること。				
成績評価の 方法	筆記試験（60％） 課題（30％） 授業態度（10％） 一定基準に達した者を総合的に評価する。				
教科書	鎌水三千男『図書館と法：図書館の諸問題への法的アプローチ』（JLA 図書館実践シリーズ12） 日本図書館協会、2009.				
参考文献	塩見昇・山口源治郎編著『新図書館法と現代の図書館』日本図書館協会、2009.				

授業科目	図書館サービス概論	単位数	2	担当教員	木下朋美
講義のねらいと概要	<p>図書館サービスとは、図書館が利用者のニーズに基づいて必要な資料や情報を提供するために行っているサービスである。授業では公共図書館を中心に、図書館サービスの種類や方法、対象や年齢に応じた図書館サービスの現状について解説する。受講者が多様な図書館サービス全般について理解・習得できることを目標とする。</p>				
授業計画	第1週	はじめに 図書館サービスの意義と理念			
	第2週	来館者へのサービス1：資料提供サービス			
	第3週	来館者へのサービス2：閲覧サービス/フロアワーク			
	第4週	利用空間の整備			
	第5週	貸出サービス1：予約サービス、リクエストサービスと複本問題			
	第6週	貸出サービス2：団体貸出と移動図書館			
	第7週	情報提供サービス1：レファレンスサービス			
	第8週	情報提供サービス2：地域における情報拠点			
	第9週	図書館サービスの連携・協力			
	第10週	アウトリーチサービス			
	第11週	年齢別サービス1：ブックスタート、児童サービス			
	第12週	年齢別サービス2：ヤングアダルトサービス、高齢者サービス			
	第13週	図書館サービスと著作権			
	第14週	利用者への接遇・コミュニケーション			
	第15週	試験とこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>図書館サービス全般を扱うため、講義内容も多い。配布資料や参考書を使った予習復習をしっかり行ってほしい。 期末試験の他に、図書館サービスの事例に関するミニレポートを課す。</p>				
成績評価の 方法	筆記試験（50%）、レポート（30%）、授業態度（20%）				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	<p>『図書館サービス論（JLA 図書館情報学テキストシリーズ - 3）』（小田 光宏 編著、日本図書館協会） 『改訂図書館サービス論（新図書館学シリーズ3）』（高山 正也ほか 著、樹村房） その他、授業中に適宜紹介する。</p>				

授業科目	情報サービス論	単位数	2	担当教員	木下朋美
講義のねらいと概要	この講義では図書館で提供される情報サービスについて、レファレンスサービスを中心に、情報サービスの意義と種類、印刷資料と電子資料の情報源情報検索の理論と方法など、情報サービスの全体を考察する。受講者が情報サービスの内容と方法の基礎知識を習得することを目標とする。				
授業計画	第1週	はじめに 情報サービスとは何か			
	第2週	図書館における情報サービスの意義			
	第3週	情報サービスの歴史			
	第4週	情報サービスの種類1：直接サービス			
	第5週	情報サービスの種類2：間接サービス			
	第6週	レファレンスサービスの理論			
	第7週	レファレンスサービスの実際			
	第8週	情報検索サービスの理論と方法1：データベース検索の基礎			
	第9週	情報検索サービスの理論と方法2：データベース検索の方法			
	第10週	情報検索サービスの理論と方法3：オンラインデータベースの検索			
	第11週	各種情報源の特徴と利用法1：書誌データ検索のための情報源 / 事実データ検索のための情報源			
	第12週	各種情報源の特徴と利用法2：レファレンスブックの活用 / インターネット情報源の活用			
	第13週	発信型情報サービスの意義と方法			
	第14週	図書館利用者教育			
	第15週	試験とこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注意	情報サービス演習を受講する際の基礎となる科目であるため、しっかりと復習を行ってほしい。期末試験の他に、授業中にミニレポートを課す。				
成績評価の 方法	筆記試験（50％）、レポート（30％）、授業態度（20％）				
教科書	『情報サービス論』（大串夏身・齋藤誠一 編集、理想社） この他、必要に応じてプリントを配布する。				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				

授業科目	児童サービス論	単位数	1	担当教員	木下朋美
講義のねらいと概要	<p>乳幼児からヤングアダルトまで、子ども時代の読書の重要性とそれをサポートする児童サービスの方法・意義について解説する。子どもに読書の楽しみを伝えるため、子どもの本について熟知し、読み聞かせやストーリーテリングなど、児童サービスの方法を習得する必要がある。受講者がそのような児童サービスの方法や意義について理解することを目標とする。</p> <p>(2年生用)</p>				
授業計画	第1週	はじめに 児童サービスの意義			
	第2週	児童図書館資料とその特性1：絵本			
	第3週	児童図書館資料とその特性2：児童文学・知識の本			
	第4週	子どもに対する図書館サービス1：読み聞かせ・ストーリーテリング・ブックトーク			
	第5週	子どもに対する図書館サービス2：学習支援・ヤングアダルトサービス			
	第6週	学校図書館および各種機関との連携・協力			
	第7週	児童図書館員			
	第8週	試験とこれまでのまとめ			
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法 履修上の 注意	<p>基本的に講義形式を予定しているが、演習を行うことも考えているため、しっかりと出席してほしい。</p> <p>試験のほか、授業中にミニレポートを課す。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(60%)、レポート(20%)、授業態度(20%)				
教科書	『児童サービス論(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 11)』(堀川照代 編著、日本図書館協会) その他、必要に応じて適宜、プリントを配布する。				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				

授業科目	情報サービス演習		単位数	2	担当教員	小山守恵
講義のねらいと概要	<p>図書館の持つ情報資源を把握し、利用者に適切な回答を提供するための基礎知識と技術（資料知識、レファレンスインタビュー、回答方法など）を習得する。</p> <p>情報入手のための情報源や検索用語の選定など、情報検索のスキルを演習により習得する。</p>					
授業計画	第1週	ガイダンス、レファレンスサービスの意義	第16週	検索演習 1-1		
	第2週	レファレンスコレクションの整備	第17週	検索演習 1-2		
	第3週	利用者とのコミュニケーション	第18週	検索演習 1-3		
	第4週	資料の調べ方 1	第19週	検索演習 1-4		
	第5週	資料の調べ方 2	第20週	検索演習 1-5		
	第6週	資料の調べ方 3	第21週	検索演習 1-6		
	第7週	レファレンスブック 1	第22週	検索演習 1-7		
	第8週	レファレンスブック 2	第23週	検索演習 1-8		
	第9週	レファレンスブック 3	第24週	情報検索システム		
	第10週	レファレンスブック 4	第25週	検索演習 2-1		
	第11週	レファレンスブック 5	第26週	検索演習 2-2		
	第12週	質問類型別の特性	第27週	検索演習 2-3		
	第13週	レファレンスツール 1	第28週	発信型情報サービス パスファインダー1		
	第14週	レファレンスツール 2	第29週	発信型情報サービス パスファインダー2		
	第15週	レファレンスツール 3	第30週	まとめ（情報サービスの評価）		
指導方法 履修上の 注意	<p>授業は多数の参考図書とPCを使用する。</p> <p>レファレンス検索事象ごとの解説と演習を行う。</p> <p>演習問題ごとに検索結果の記録をレポートとして作成し発表する。</p> <p>全体の流れにより多少の変更あり。</p>					
成績評価の方法	レポート（40％） 課題（30％） 授業態度（30％）					
教科書	授業関連資料を配布する。					
参考文献	授業時に提示する。					

授業科目	図書館情報資源概論	単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要	<p>図書館には図書・雑誌を中心に、様々な形態の資料が多数存在しています。また、図書館以外に存在する情報資源もサービスのために利用されます。これらの生産、流通、収集、整理、公開、保存について概説します。</p> <p>図書館に関わる情報資源の特性について理解を深め、適切な提供と利用のかたちについて知識を獲得することが目標です。</p>				
授業計画	第1週	履修案内および科目説明、導入			
	第2週	情報資源と図書館			
	第3週	情報資源の種類：図書；冊子体・電子版			
	第4週	情報資源の種類：継続資料；逐次刊行物（一般雑誌、学術雑誌、新聞）			
	第5週	情報資源の種類：継続資料；更新資料（加除式資料、ウェブサイト、データベース等）			
	第6週	情報資源の種類：図書・継続資料以外の電子資料・ネットワーク情報資源			
	第7週	情報資源の種類：視聴覚資料			
	第8週	情報資源の種類：政府刊行物、地域資料、その他資料			
	第9週	情報資源の流通：これまでの出版流通			
	第10週	情報資源の流通：新しい出版流通			
	第11週	図書館における情報資源の収集・コレクション構築			
	第12週	図書館における情報資源の公開・運用			
	第13週	図書館における情報資源の保存			
	第14週	情報資源に関する著作者・出版者・利用者の権利と図書館			
	第15週	まとめおよび試験			
指導方法 履修上の 注意	図書館にある本・雑誌以外の資料についても日常的に意識しておくことが望ましいです。				
成績評価の 方法	筆記試験（100％）				
教科書	無し。資料を適宜配布します。				
参考文献	『図書館資料論（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2-7）』（馬場俊明編著、日本図書館協会、2008年）、『古本通：市場・探索・蔵書の魅力』（樽見博著、平凡社、2006年）、『学術情報流通と大学図書館』（日本図書館情報学会研究委員会編、勉誠出版、2008年）				

授業科目	情報資源組織論	単位数	2	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要	<p>図書館に蓄積される様々な情報資源は、組織化（整理）されることで初めて効果的・効率的に利用者へと提供することができます。図書館における組織化の意義・理論・技術について、歴史的経緯を踏まえつつ概説します。さらに図書館以外での情報資源の組織化についても取り上げます。</p> <p>組織化の意義を理解し、現在までの流れについて基礎的な知識を獲得することを目標とします。</p>				
授業計画	第1週	履修案内および科目説明、導入			
	第2週	情報資源組織化の目的・意義			
	第3週	組織化の対象			
	第4週	組織化の基本的概念 1			
	第5週	組織化の基本的概念 2			
	第6週	組織化の技術：記述 1；目録 1			
	第7週	組織化の技術：記述 2；目録 2			
	第8週	組織化の技術：記述 3；メタデータ			
	第9週	組織化の技術：索引 1；主題			
	第10週	組織化の技術：索引 2；分類			
	第11週	組織化の技術：索引 3；件名			
	第12週	類縁機関における組織化：博物館・文書館			
	第13週	類縁機関における組織化：図書館との連携			
	第14週	個人・Web における組織化のかたち			
	第15週	まとめおよび試験			
指導方法 履修上の 注意	「情報資源組織演習」の履修の前提になる科目です。				
成績評価の 方法	筆記試験（100％）				
教科書	無し。資料を適宜配布します。				
参考文献	『資料組織概説（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2-9）』（柴田正美著、日本図書館協会、2008年）、『情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ）』（田窪直規編、樹村房、2011年）、『情報資源組織論及び演習（ライブラリー図書館情報学）』（那須雅熙著、学文社、2012年）				

授業科目	情報資源組織演習		単位数	2	担当教員	矢代 寿寛
講義のねらいと概要	<p>2012年度からの新カリキュラムです。「資料組織演習」の内容を引き継ぎます。「情報資源組織概論」で学んだことを元に、様々な環境での組織化の仕組みを確認しながら、実在する情報資源を用いた演習を行います。現代的な課題についても対応します。</p> <p>組織化のための規則は絶えることなく変更されていきます。特定の環境によらず、多種多様な情報資源を正確に記述・分類できる技術を獲得することが目標です。</p>					
授業計画	第1週	履修案内および科目説明、導入	第16週	現代の情報資源組織化		
	第2週	目録規則の解説と実習1：図書の記述1	第17週	コンピューターでの目録作成1：コピー1		
	第3週	目録規則の解説と実習2：図書の記述2	第18週	コンピューターでの目録作成2：コピー2		
	第4週	目録規則の解説と実習3：図書の記述3	第19週	コンピューターでの目録作成3：コピー3		
	第5週	目録規則の解説と実習4：逐次刊行物の記述1	第20週	コンピューターでの目録作成4：オリジナル1		
	第6週	目録規則の解説と実習5：逐次刊行物の記述2	第21週	コンピューターでの目録作成5：オリジナル2		
	第7週	目録規則の解説と実習6：逐次刊行物の記述3	第22週	コンピューターでの目録作成6：オリジナル3		
	第8週	目録規則の解説と実習7：その他資料	第23週	目録の品質管理1：典拠		
	第9週	件名の解説と実習1	第24週	目録の品質管理2：評価・修正		
	第10週	件名の解説と実習2	第25週	目録の品質管理3：書誌調整		
	第11週	件名の解説と実習3	第26週	メタデータの作成1：メタデータの作成1		
	第12週	分類の解説と実習1	第27週	メタデータの作成2：データ的设计		
	第13週	分類の解説と実習2	第28週	メタデータの作成3：メタデータの作成2		
	第14週	分類の解説と実習3	第29週	メタデータの作成4：マッピング		
	第15週	まとめと補足	第30週	総まとめと復習		
指導方法 履修上の 注意	<p>教科書以外に『日本目録規則 1987年版改訂3版』『日本十進分類法新訂9版』『日本十進分類法新訂10版試案』『基本件名標目表第4版』『Web NDL Authorities』『NACSIS-CAT マニュアル』を利用します。目録作成ではコンピューターも利用します。文字入力やマウス操作といった基本的操作には予めある程度慣れておいて下さい。</p>					
成績評価の方法	課題（50％）実技（50％）					
教科書	『資料組織演習（JLA 図書館情報学テキストシリーズ2-10）』（吉田憲一編、日本図書館協会、2007年）					
参考文献	『情報資源組織論及び演習（ライブラリー図書館情報学）』（那須雅熙著、学文社、2012年）					

授業科目	図書館基礎特論	単位数	1	担当教員	宮内 淳平
講義のねらいと概要	<p>図書館をめぐる近年の動向や諸課題についてテーマを取り上げ、幅広く図書館サービスについて考える。その際、具体的各種サービスについて他の図書館も含め実際図書館等を見学し、広く知識を収集し、また、その内容を比較検討し学習することをねらいとする。</p> <p>また、利用者対象別の各種図書館・専門図書館サービスの特質について考えてみる。</p>				
授業計画	第1週	図書館と社会の関係について			
	第2週	漢籍及び古典資料について			
	第3週	漢籍の分類について（中国の場合）			
	第4週	漢籍の分類について（日本の場合）			
	第5週	情報検索（1）四角號碼索引とは			
	第6週	情報検索（2）四角號碼索引の実際			
	第7週	図書館システム（公立図書館・大学図書館）と図書館の施設			
	第8週	図書館システム（専門図書館と大学図書館）と図書館の施設			
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法履修上の注意	近隣の公共図書館・専門図書館を訪ね図書館調査を行い比較検討し、レポート作成の予定。				
成績評価の方法	レポート（20％） 課題（50％） 授業態度（30％）				
教科書	使用しない。適宜プリント配布予定。				
参考文献					

授業科目	図書館サービス特論	単位数	1	担当教員	小山守恵
講義のねらいと概要	<p>図書館の諸問題について取り上げ、幅広く図書館サービスについて考える。 図書館サービスの現状を解説。さらに、図書館見学等を行い各種図書館における情報サービスの特質を学習する。比較検討により情報サービスの理解を深める。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス			
	第2週	事例研究1 国会図書館・国際子ども図書館			
	第3週	資料の組織化			
	第4週	図書館見学1 (市立図書館=見学先未定)			
	第5週	レポート発表			
	第6週	レファレンスツール1 書誌情報			
	第7週	事例研究2 学校図書館			
	第8週	レファレンスツール2 調べ方案内			
	第9週	見学2 (見学先未定)			
	第10週	レポート発表			
	第11週	レファレンスツール3 情報ファイル			
	第12週	事例研究3 新しい図書館像			
	第13週	レファレンスツール4 組織化			
	第14週	これからの図書館			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>館種別事例研究に、事例解説と公共図書館等の視察、レポート作成・発表の予定。 情報サービスの理解を深めるため演習を行う。 授業時に関係資料を配布し参考文献を指示する。 全体の流れにより多少の変更あり。 自主的に多くの図書館を見学して、図書館サービスの様子を調査すること。</p>				
成績評価の 方法	レポート(30%) 課題(40%) 授業態度(30%)				
教科書	授業関連資料を配布する。				
参考文献	授業時に提示する。				

授業科目	図書館情報資源特論	単位数	1	担当教員	矢代寿寛
講義のねらいと概要	<p>2012年度からの新カリキュラムです。「専門資料論」の内容を発展的に引き継ぎます。専門資料とは、広義には何らかの専門家が利用する資料、狭義には学術情報のことです。専門資料は、広く一般に流通して利用される資料とは、異なった性質を持っています。図書館を通じて専門資料を利用する、または提供することの現状と課題について概説します。学術分野ごとの主要な専門資料と、それを探索したり利用したりするための方法・ツールについて学びます。分野（人文科学、社会科学、自然科学）によって異なる学術情報の特徴と流通について理解を深め、知識を獲得することが目標です。</p>				
授業計画	第1週	履修案内および科目説明、導入			
	第2週	専門資料論と学術情報流通論			
	第3週	学術情報の特徴：人文科学			
	第4週	学術情報の特徴：社会科学			
	第5週	学術情報の特徴：自然科学			
	第6週	学術情報の特徴：その他			
	第7週	学術情報の流通：概要			
	第8週	学術情報の流通：人文科学			
	第9週	学術情報の流通：社会科学			
	第10週	学術情報の流通：自然科学			
	第11週	学術情報の流通：インフォーマルコミュニケーション、研究者同士のネットワーク			
	第12週	学術情報のメディア：冊子版；図書・雑誌			
	第13週	学術情報のメディア：電子版；電子書籍			
	第14週	学術情報のメディア：電子版；電子雑誌			
	第15週	まとめおよび試験			
指導方法 履修上の 注意	<p>国立情報学研究所と国立国会図書館がネット上で提供しているサービス（CiNii，国立国会図書館サーチ）を実際に利用しておくことが望ましいです。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（100％）				
教科書	無し。資料を適宜配布します。				
参考文献	<p>『専門資料論 新訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 2-8）』（三浦逸雄編、日本図書館協会、2010年）、『科学技術コミュニケーション入門：科学・技術の現場と社会をつなぐ』（梶雅範ほか編、培風館、2009年）</p>				

授業科目	図書・図書館史	単位数	1	担当教員	西巻悦子
講義のねらいと概要	<p>・図書や図書館はどのように誕生しどのような経緯で今のような形態に行き着いたのか、社会的・科学的背景を考えながら、図書と図書館の歴史的な変遷を知ることがをねらいとする。</p> <p>・図書をはじめとするメディアの形態、種類並びに流通の視点から、世界と日本における図書館の発展を解説する。</p>				
授業計画	第1週	記録メディアの歴史：紙以前の記録メディアから現代まで			
	第2週	世界の図書館の歴史：古代・中世の図書館			
	第3週	世界の図書館の歴史：近世・近代の図書館			
	第4週	世界の図書館の歴史：20世紀の図書館			
	第5週	日本の図書館の歴史：古代・中世の図書館			
	第6週	日本の図書館の歴史：近代図書館の誕生			
	第7週	日本の図書館の歴史：戦後改革と図書館			
	第8週	現代の図書館事情：日本・アメリカ・カナダ・北欧の図書館			
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法 履修上の 注意	<p>主に教員が講義します。</p> <p>課題レポートの詳細は開講後、お知らせします。</p>				
成績評価の 方法	<p>レポート（80％） 授業態度（20％）</p> <p>以上を総合的に評価します。</p>				
教科書	<p>小黑浩司編著『図書及び図書館史』日本図書館協会、2010。（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 12）</p>				
参考文献	<p>岡田温『図書館 その本質・歴史・思潮』丸善、1980。</p> <p>寺田光孝編集『図書及び図書館史』樹村房、1999。</p>				